

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	移住総合支援窓口の設置	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1): 定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①: 移住・定住を推進する				
事業概要	移住(定住)を希望する方にワンストップで対応する窓口				
R3年度実施内容	相談件数 151件(1月末時点)				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	相談件数 151件(1月末時点)			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・移住に対する相談件数は近年横ばいであり、その件数の多くが空き家バンクへ問い合わせである				
	【事業実施効果】				
	・移住者に対し、初期段階からきめ細かな対応が行えている				
	【現状認識】				
・多くが空き家バンクへの問い合わせである					
【今後の見通し・将来予測】					
・多くが空き家バンクへの問い合わせであるため、空き家バンク(登録件数の増)の充実を図ることで、今後も継続した移住者への関心度を維持できるものとする					
【事業改善予定等】					
・地域おこし協力隊と連携し、移住定住支援策を掲載したパンフレットの作成やホームページの充実による情報発信					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
・地域おこし協力隊と連携し、移住定住支援策を掲載したパンフレットの作成やホームページの充実による情報発信					
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	移住を希望する方にとっては必要な事業であるため、引き続き継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	空き家・空き地バンク支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1): 定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①: 移住・定住を推進する				
事業概要	空き家や空き地を貸したい・売りたい人、空き家に住みたい・購入したい人の情報登録を行い、HPなどで広く周知を図り、空き家の利活用を推進する。				
R3年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録 10件 ・契約成立 8件 				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	・新規登録 10件、契約成立 8件			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	・空き家利用希望世帯が多く、物件待ちの状況である			
	【事業実施効果】	・支援事業との連携により、空き家利用希望世帯が増加している			
	【現状認識】	・空き家利用希望者が多く、物件待ちの状況である			
	【今後の見通し・将来予測】	・物件登録希望者、物件利用希望者ともにわかりやすい説明、周知方法を図っていく			
	【事業改善予定等】	<ul style="list-style-type: none"> ・町のHPの改修にあわせた空き家バンク、空き地バンクのHPの改修 ・支援策のパンフレットと連携して空き家バンク、空き地バンクの周知を図る 			
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 空き家の利活用を促進するために必要な制度である。 リノベーション支援とも併せ、今後も継続する				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	地域おこし協力隊による空き家活用(サテライトオフィスの誘致)	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1): 定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①: 移住・定住を推進する				
事業概要	・地域おこし協力隊による空き家活用の一環として、町内の空き家を活用したサテライトオフィスを整備する				
R3年度実施内容	・未実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	未実施			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・地域おこし協力隊において、役場庁舎1階の町民ホールを誰でも利用できるフロアに改修し、コワーキングスペースの実証実験を行う				
	【事業実施効果】				
	・未実施				
	【現状認識】				
・未実施					
【今後の見通し・将来予測】					
・地域おこし協力隊において、役場庁舎1階の町民ホールを誰でも利用できるフロアに改修し、コワーキングスペースの実証実験を行う					
【事業改善予定等】					
・役場1階(町民ホール、旧食堂内)を誰でも利用できるスペースへと活用する					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
・役場1階(町民ホール、旧食堂内)を誰でも利用できるスペースへと活用する					
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	本年度、ワーケーションの実証実験を実施した結果に基づき、事業精度を高めたものにする。こと。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	目的別創業・企業者リノベーション及びサテライトオフィス支援	進捗状況	—	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(1): 定住・住宅対策の充実を図る				
主要施策	①: 移住・定住を推進する				
事業概要	・空き家や空き店舗所有者などが、ICT(情報通信技術)企業等が入居できるようにオフィスをリノベーションした際に、リノベーション費用の一部を支援する				
R3年度実施内容	・未実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	—			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	・未実施			
	【事業実施効果】	・未実施			
	【現状認識】	・未実施			
	【今後の見通し・将来予測】				
	【事業改善予定等】				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	評価なし(期間内には制度化し運用を目指すこと)				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	英彦山庭園保存活用事業	進捗状況	—	担当課 及び係名	まちづくり課 歴史文化財係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(2): 有形文化財等の保存と活用を推進する				
主要施策	①: 有形文化財等の保存と活用を推進する				
事業概要	旧亀石坊庭園をはじめとする「国指定名勝 英彦山庭園」の保存・保護と周知を図る。				
R3年度実施内容	—				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	—			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 令和4年度での庭園見学会実施に向け検討を行ったものの、特記すべき実施事項はない。				
	【事業実施効果】 未実施のため、効果なし				
	【現状認識】 「国指定名勝 英彦山庭園」となる以前の「国指定名勝」は、旧亀石坊庭園のみであり、旧亀石坊庭園所有者(個人)の厚意により、一般無料公開していただいていた。 平成31年3月に、旧座主院庭園(九大生物学実験施設)や英彦山修験道館横の政所坊庭園、神宮の御旅所庭園、泉蔵坊庭園(玉屋神社付近)を合わせ「国指定名勝 英彦山庭園」となったものであるが、泉蔵坊庭園は、庭園自体の荒廃と山中の解りづらい場所にあり、また旧座主院庭園は現九大生物学実験施設であることから、通常、立ち入りできない状況となっている。				
	【今後の見通し・将来予測】				
	【事業改善予定等】 令和4年度において、普段は立ち入りのできない旧座主院庭園(生物学研究所)での見学イベントの開催により、目標達成と地方創生へ効果を与えることが期待できる。				
今後の方針 (担当課)	②事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) 【目標値・理由等】 前記のとおり、令和4年度において、旧座主院庭園の見学イベントを開催する予定であるが、今後も継続して行えるよう九大と協議を行うとともに、他の国指定名勝所有者とも協議を行い、近い将来に各庭園を巡るツアー等の開催を目指し検討を進める。				
事務局意見 (総合企画財政課)	②事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) 担当課の方針通り				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	民間観光プレイヤーの支援事業	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 観光振興係
基本目標	1: 添田町への新しい「ひと」の流れをつくる				
施策	(3): 観光の振興を図る				
主要施策	①: 民間観光プレイヤーを育成・確保する				
事業概要	本町は観光事業の担い手となるプレイヤーの増加やDMOの組成を目指し、第1期の総合戦略事業において各種検証を行ってきた。その事業を通じて、地域プレイヤーの参画や体験づくりが進んできており、第2期の総合戦略においては民間観光プレイヤーの継続支援を行い、自立や連携を推し進め、将来的なDMO等の組成につなげていきたい。				
R3年度実施内容	第1期の事業として、観光ガイドの育成や旧英彦山レクリエーションセンターを活用したオートキャンプ事業を行い、その結果として、観光ガイドの有料化や、民間観光プレイヤーにより社団法人が設立され施設の貸付けを行った。この施設を拠点としてさらなる民間観光プレイヤーの育成と確保を図るため、R3年度においては施設の改修工事を行った。				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	8,486,000	0	8,486,000	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	観光ガイド件数9件 体験プログラム5件			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 コロナ禍において観光ガイドや体験プログラムは厳しい状況ではあったが、観光ガイドによる歴史を中心とした自主企画(窟めぐりやガラガラの絵付け体験)の造成や、社団法人に貸付けを行った旧英彦山レクリエーションセンターを核とした自然系の体験プログラム(椎茸やリング狩り体験)など、活動は活発化してきており、目標を上回る結果となった。				
	【事業実施効果】 本年度はコロナ等の影響や拠点の改修などで工事期間が生じたことにより限定的な活動になってしまい、費用対効果だけをみると少し厳しい面もあった。しかし、民間観光プレイヤーの活動の基盤づくりは進んでおり、今後はさらなる発展が期待できる。				
	【現状認識】 民間観光プレイヤーの活動は活発化しているものの、観光マネジメントができるプレイヤーの育成(DMO等)にまでは至っていない。				
	【今後の見通し・将来予測】 今後、観光ガイドや社団法人などの進展にあわせた各種支援を進めていくことにより、民間主体のDMO等ができる基盤づくりを進めていく。				
	【事業改善予定等】 本年度は基盤づくりということでハード的な支援にとどまったが、今後はソフト面の支援も検討していきたい。				
今後の方針(担当課)	②事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った)				
	【目標値・理由等】 改修工事等の支援により観光ガイドや社団法人の意欲は高まっている。今後は各プレイヤーのイベントなど自主的な取組みに対してソフト的な支援を検討していきたい。				
事務局意見(総合企画財政課)	②事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った)				
	引き続き、臨機応変な対応を心掛けながら支援体制の充実を図ること。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	就農支援推進事業	進捗状況	C	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	①: 担い手を育成・確保する				
事業概要	農業従事者の高齢化等が進み、後継者不足となっており、担い手を育成、確保、定着を図る				
R3年度実施内容	就農相談 5 件(町内 3名・町外 2名)				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	3,322,000	0	0	0	3,322,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	就農相談 5 件(町内 3名・町外 2名)			
	事業効果	③地方創生に効果があった(目標値を上回ることはなかったものの事業開始前よりも改善した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	事業制度の見直しを行って初めての募集(周知)となったため、直接支援者はいなかった			
	【事業実施効果】	就農相談が5件あり、うち2名は、令和4年度に支援開始予定			
	【現状認識】	農業だけで、生計を維持するのは難しく、半農半X事業も展開する			
	【今後の見通し・将来予測】	現状維持から、支援対象者の2名を積極的な支援に移行			
	【事業改善予定等】				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 本町の主要産業である農業においては、農業従事者の高齢化等が進み後継者不足となっており、担い手を確保や育成を行うことは重要である。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	農業担い手育成(次世代人材投資事業)	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	①: 担い手を育成・確保する				
事業概要	農業経営を始めて間もない新規就農者の所得確保、定着を図る				
R3年度実施内容	補助対象者 2名				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	3,750,000	3,750,000	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	補助金交付者 2名			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 着実な就農、定着するために必要な支援を実施				
	【事業実施効果】 新規就農者として、定着に向けて、経営ができています。				
	【現状認識】 新型コロナ禍で、新規就農者の所得確保が厳しくなっている。				
	【今後の見通し・将来予測】 現在の補助対象者は、令和4年9月で、補助対象期間が終了。 新たな対象者は、現時点では、いない。				
	【事業改善予定等】				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 特になし				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	園芸農業等総合対策事業	進捗状況	—	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	②: 付加価値の高い作物づくりを推進する				
事業概要	パイプハウス等の施設や省力化機械導入に対して、福岡県の補助を活用し、支援を図る				
R3年度実施内容	補助対象者なしのため、未実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	未実施			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 受益者負担が伴うため、要望者なしとなった				
	【事業実施効果】 未実施				
	【現状認識】				
	【今後の見通し・将来予測】 高収益型農業を展開するうえで、潜在的需要はあると見込まれる				
	【事業改善予定等】				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 特になし				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	木材及びバイオマス利用推進	進捗状況	—	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	②: 付加価値の高い作物づくりを推進する				
事業概要	地域材を公共施設における内装材や机などの木製品を積極的に導入し、木材利用の促進と利用拡大を図る。乳幼児に木を活用した記念品を贈呈し、幼少期から木に触れる機会を与え木育につなげる。 林地残材のバイオマス利用を推進する。				
R3年度実施内容	保育園や町の施設に机や棚の木製品を導入した 新生児や卒園児に木製記念品を贈呈				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	4,996,100	0	0	4,996,100 (森林環境譲与税)	0
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	保育園や町の施設に机や棚の木製品を導入した。新生児や卒園児に木製記念品を贈呈			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	国産材の価格低迷により木材産業が衰退とそれに伴う荒廃森林の増加			
	【事業実施効果】	町施設の木質化による木材利用と木育の推進			
	【現状認識】	保育園を中心に施設の木質化を行った結果、園児や保育士から好評をいただいた			
	【今後の見通し・将来予測】	学校建設に伴い、内装材や備品に添田産木材の利用を進め、併せて木育を進める			
	【事業改善予定等】	バイオマス利用については、田川市に建設予定のバイオマス発電所の建設状況を考慮し事業を実施を検討する			
今後の方針 (担当課)	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 【目標値・理由等】 学校建設に地域材を活用できるように関係機関と調整を進める				
事務局意見 (総合企画財政課)	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 学校建設に留まらず、コストバランスを考慮したうえで、公共施設の改修等が必要な場合、かつ木質化が可能な場合は積極的に木質化すること				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	県営農地整備事業(新規)	進捗状況	—	担当課及び係名	地域産業推進課 農業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	③: 生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	耕作条件の悪い不整形な区画のほ場を整備し、生産基盤の強化を図る				
R3年度実施内容	地元要望地区(2地区)で、地域内での事業参加同意を取得中				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	未実施			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	未実施			
	【事業実施効果】	未実施			
	【現状認識】	未実施			
	【今後の見通し・将来予測】	地元の同意取得が進んだ場合、福岡県と協議し、県営事業実施計画の策定に移行する			
	【事業改善予定等】				
今後の方針 (担当課)		③今年度と同様に事業を継続する			
	【目標値・理由等】				
事務局意見 (総合企画財政課)		③今年度と同様に事業を継続する			
		引き続き、地域内での事業参加同意の取得を目指すこと			

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	森林環境整備事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	③: 生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	自然災害や獣害被害などの自己の責任によらず植栽樹が被災した場合、再造林を支援し森林を再生することにより森林の公的機能の維持を図る。				
R3年度実施内容	被災した山林にスギや広葉樹の植栽 昨年度植栽した箇所の下刈りの実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	12,281,500	0	0	12,281,500 (森林環境譲与税)	0
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	植栽 1.88ha、下刈り 3.03ha			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 豪雨被害の増加やシカによる食害の増加により、伐採後植栽しても育たない状況がある				
	【事業実施効果】 食害防止ネットで防げなかった箇所に単木柵を設置することにより食害被害が大きく軽減された				
	【現状認識】 要望が年々増加しているが、森林環境譲与税交付金の範囲内での事業であることから、実施箇所の選定が必要				
	【今後の見通し・将来予測】 森林環境譲与税の活用方法として、令和6年度までは学校建設の木質化に特化したいので、7年度以降再度実施をしたい				
	【事業改善予定等】 なし				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 事業要望から優先順位を明確化し事業を実施する				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 特になし				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	荒廃森林再生事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 林業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(1): 農林業の振興を図る				
主要施策	③: 生産基盤の整備と強化を推進する				
事業概要	長期間施業されていない森林を調査し、施業が必要な森林に対して間伐や侵入竹除去などの整備を行う。また、未植栽地には広葉樹を植栽し獣害対策を行い、翌年以降は下刈りを行い、植栽樹の生育を促す。 (福岡県の実施要項に基づく)				
R3年度実施内容	調査面積 253.3ha、間伐 97.67ha、植栽 6.11ha、下刈り 15.96ha、作業路開設 3,200m				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	95,733,000	95,733,000	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	調査面積 253.3ha、間伐 97.67ha、植栽 6.11ha、下刈り 15.96ha、作業路開設 3,200m			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	林業の衰退や林業者の高齢化等により長期間整備されずに放置された森林が増加			
	【事業実施効果】	森林の多面的機能の維持・増加が期待される			
	【現状認識】	森林整備が進んでいる			
	【今後の見通し・将来予測】	事業の実施により森林の多面的機能の維持と林業者の雇用の確保が期待される			
	【事業改善予定等】	なし			
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】	事業実施期間内に計画的に町全域の森林の整備を行う			
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	計画に沿った整備を継続する				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	添田町創業等支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 商工業振興係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(2): 商工業の振興を図る				
主要施策	①: 雇用の場の創出をする				
事業概要	添田町創業等補助金を活用した創業、事業展開等を支援する事業				
R3年度実施内容	9件				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	9,500,000	0	8,500,000	1,000,000	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	9件			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな事業実施を昨年度見送った事業者やコロナ禍を機に事業展開を実施した事業者がいたため				
	【事業実施効果】				
	・創業等補助金を活用、申請時より認定支援機関である商工会が経営指導を実施することで、その後の支援にもつながっている。				
	【現状認識】				
商工会と連携を取り支援することで、より効果的である					
【今後の見通し・将来予測】					
・現状維持が望ましい					
【事業改善予定等】					
なし					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	創業を後押しすることは本町において重要な事業のため				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	農産加工品開発支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	地域産業推進課 有害鳥獣係
基本目標	2: 添田町への新しい「しごと」の流れをつくる				
施策	(3): 特産物の開発・ブランド化の推進を図る				
主要施策	②: 特産物のブランド化を推進する				
事業概要	商品開発や販売促進、販路拡大等を行う活動に対し、経費の一部を助成する事業				
R3年度実施内容	新規農産加工品数4品				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	200,000円	0	0	200,000円 (産業振興基金)	
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	新規農産加工品数4品			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・加工品製造者が商品開発や販路の拡大等を意欲的に行い、町の知名度やイメージ向上に繋がる活動を支援するため、事業展開。加工品の開発やラベルデザイン開発、商談に係る経費、商品分析に係る経費など幅広い分野で支援を実施。				
	【事業実施効果】 ・加工品の開発、販売促進・販路拡大を支援し、地域ブランドの発展や町のPRにも繋がった。また、ふるさと納税の返礼品の登録も推進している。				
	【現状認識】 ・商工会と連携を図り、効果的な支援を行う				
	【今後の見通し・将来予測】 ・令和3年度から開始した事業であり、現段階では現状の内容が望ましい				
	【事業改善予定等】 ・なし				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 意欲的な加工品製造者の活動を支援する事ができたので、令和4年度も引き続き商品開発や販売促進、販路拡大の活動を支援していく。				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 第1期総合戦略より実施している事業である。 第2期より内容を見直し、支援に重点を置く。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	母子保健事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 健康対策係
基本目標	3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策	(1):健康づくりの推進と地域医療の充実を図る				
主要施策	①:妊産婦や乳幼児の健康づくりを推進する				
事業概要	子育て世代包括支援センターにおいて妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施し、母子の健康増進を図る。				
R3年度実施内容	妊婦健康診査340件・母子手帳交付31件・乳幼児健康診査87件・1歳6か月児健康診査33件・3歳児健康診査52件・発達相談12件・産後ケア事業7件・新生児聴覚検査助成事業21件				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	5,135,000	119,000	0	0	5,016,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	妊婦健康診査340件・母子手帳交付31件・乳幼児健康診査87件・1歳6か月児健康診査33件・3歳児健康診査52件・発達相談12件・産後ケア事業7件・新生児聴覚検査助成事業21件			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 高齢及び若年妊娠出産など健康管理の必要な妊婦は増加傾向にある。そのため健康診査を充実させることが重要である。また妊娠期の健康はその後の児の成長発達に影響してくるので妊婦健診と継続して乳幼児の健康診査を充実させることも重要である				
	【事業実施効果】 妊娠全期を通して、定期的に健康診査を受けられるように14回の受診補助券を交付し、さらに医療機関と連携をとり妊娠中、出産後の健康管理を継続的に行う。また乳幼児においては発達の節目である乳児(4か月、7か月、12か月児)健診、1歳6か月児健診、3歳児健診を実施することで、疾病や発達障害の早期発見ができ、同時に相談指導により乳幼児の健康増進と保護者の育児支援につなぐことができる				
	【現状認識】 母子保健法に基づき実施。				
	【今後の見通し・将来予測】 継続実施。				
今後の方針(担当課)	【事業改善予定等】 3歳児健康診査時において弱視等を早期発見治療につなげるため、屈折検査機器購入予定				
	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 法に基づく事務事業であるため継続する				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	子育て応援リユース事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 子育て・障がい者支援係
基本目標	3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策	(2):子育て支援の充実を図る				
主要施策	③:子育て家庭を経済的に支援する				
事業概要	子育て世帯で不要になった再利用できる様々な用品を譲り受け、他の子育て世帯のニーズに合ったものをリユースする。不用品リユースの可否を事前に確認し、用品の譲渡は無料活用していただくとともに、子育て世帯の情報交換の場としての利用も図る。				
R3年度実施内容	令和4年2月時点 5/25開催 10組 20名 8/24開催 3組 9名 11/30開催 6組 12名 3月に1回開催予定				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	令和4年2月時点 19組 41名			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 平成25年度より子育て支援センターの取り組みの一環として「衣類交換の日」を設け事業を実施中				
	【事業実施効果】 参加者同士の子育てに関する情報交換及び相談の場の提供として有効である。				
	【現状認識】 利用者については、町内外者の規制は設けておらず、サークル活動等についても広報で周知を図り、参加者を募っている。 衣類交換によるリユースは子育て世帯の経済的支援の一助となっている。また、参加者同士の子育てに関する情報交換及び相談の場ともなっている。				
	【今後の見通し・将来予測】 子育て支援センターの取り組みの一環として継続実施が望ましい。				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 子育て親子の居場所づくり等の取り組みとして有効である。 新型コロナウイルス感染症の感染対策の徹底による事業継続が必要である。また、HPや広報による定期的な情報発信を行うことも必要である。				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 利用者のニーズは高く、今後も引き続き継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	児童館活動推進事業	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課児童館係
基本目標	3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策	(2):子育て支援の充実を図る				
主要施策	④:児童の育成を支援する				
事業概要	児童が日頃できない体験活動を行う機会を提供し、その体験を通して自信や積極性を持たせることを目指す。				
R3年度実施内容	わくわくイベント:8回(3月に2回開催予定) 茶道教室:3回 卓球教室:4回				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	1,538,000	0	0	0	1,538,000
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	イベント・教室 15回開催			
	事業効果	④地方創生に対して効果がなかった(実績値が事業開始前よりも悪化した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通りイベントが開催できなかった。				
	【事業実施効果】 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催回数は減少しているが、午前と午後で2回イベントを実施したり、多くの子供が参加できるように工夫している。				
	【現状認識】 子供たちの興味のある事をイベント等に取り入れたため、コロナ禍で減少していた利用者が戻りつつある。				
	【今後の見通し・将来予測】 月1回わくわくイベント、夏休み等の長期休暇中の各種イベント等、多種の内容を実施することで、個々の子供のニーズに応じていく。				
	【事業改善予定等】 多くの子供もが参加できるイベントを検討する。				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 体験を通して自信や積極性を持たせることは子供の成長には必要な事であるため、コロナ禍により今後も制限される可能性はあるが、継続して実施する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	スクールソーシャルワーカー等配置事業	進捗状況	A	担当課及び係名	学校教育課学校教育係
基本目標	3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる				
施策	(3):学校教育の充実を図る				
主要施策	③:豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する				
事業概要	いじめ、不登校、虐待等の様々な問題に対処するため、家庭環境や対人関係に着目し、社会福祉等の専門的知識と技術を用いて、子ども本人と子どもを取り巻く環境の両方の相談に応じ、各関係機関と調整・連携を図り環境の改善を図ること。				
R3年度実施内容	<p>学校訪問、本人面談・家庭訪問にて、児童虐待や不登校などの継続的な助言やサポートを行う。 また、関係機関等への訪問を行い、学校での問題でなく家庭の事情だが、児童生徒に係わる問題になることが予想されることから、関係機関と連携を図り、児童生徒のケアを行う。</p> <p>週2日/年92日(552時間)</p>				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	2,916,000	232,000	0	0	2,684,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	-			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】	令和2年度から令和3年度を比べては横ばいであるが、若干増となっている。理由は、一度改善しても、再度悪化するケースもある。			
	【事業実施効果】	SSWは、週2回来町し、学校を訪問し学校問題(不登校・いじめ等)や家庭訪問(児童虐待・貧困問題等)への対応を行い関係機関等へのパイプ役となり問題解決(好転)を図っている。しかしながら、難しい問題のため、早急に解決することは困難なことからも、継続的に事業を実施する形となる。			
	【現状認識】	現在、社会情勢は極めて不透明だが、すぐに情勢が改善されるとは思われず、さらなる支援活動数が必要になる可能性があると考えられる。			
	【今後の見通し・将来予測】	現状維持が望ましい			
	【事業改善予定等】	なし			
今後の方針(担当課)	<p>③今年度と同様に事業を継続する</p> <p>【目標値・理由等】</p>				
事務局意見(総合企画財政課)	<p>③今年度と同様に事業を継続する</p> <p>学校生活においては様々な諸問題があるため、それに対応するため専門的な知識を有したSSWは必要である。</p>				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	自主防災組織設立支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	防災情報管財課 防災安全係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(1):防災・危機管理対策の充実を図る				
主要施策	②:自主防災力の向上を図る				
事業概要	地域の自主防災力の向上を図り、共助による避難誘導・避難所運営の取組を向上させ、災害時の逃げ遅れゼロを図る。				
R3年度実施内容	上落合一地区及び津野地区(3行政区)での説明会を行い、設立支援を行った。				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	0	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	令和3年度時点5団体			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 令和3年度においては新たに峰地行政区に自主防災会が設置され、令和4年度には上落合一地区に自主防災会の設置が見込まれている。津野地区については3行政区での協議を進めており、組織設置に向け支援を行っている。各地区における説明会は、事業や要望等により実施しているが、コロナ禍もあり、全体的な説明会は開催できていない。				
	【事業実施効果】 令和3年度においては地区説明を2回行い、内、上落合一地区においては令和4年度中の設置が見込まれているため、効果はあっていると見込まれる。				
	【現状認識】 全体的な説明会が開催出来ていないため、自主防災組織の普及啓発は行えていない。				
	【今後の見通し・将来予測】 新型コロナウイルスの感染拡大状況、対策状況を鑑みながら事業の継続を行っていく。				
	【事業改善予定等】 他事業との連携も図りつつ、行政区をまたぐ自主防災組織の設置、自主防災組織設置地域からの拡大等、支援内容を充実させていく。				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 令和5年度時点で8地区設置の目標を達成できるよう、地区説明会の開催を行い、普及啓発を図りながら、組織設立の支援を行っていく。				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する コロナ禍により説明会や設置に向けた対面での話し合いが困難なことも多く、当初通りに進捗が図れなかったものの、令和5年度末までには8団体に設置を目指して継続する				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	添田町バス運行事業	進捗状況	B	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(2):公共インフラの整備				
主要施策	①:地域の公共交通を維持する				
事業概要	・自家用有償運送(道路運送法第78条の2)によるコミュニティバス事業				
R3年度実施内容	・彦山線 7,943人(1月末現在)				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	22,230,000	0	0	1,263,000	20,967,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	・彦山線 7,943人(1月末現在)			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・西鉄バス(添田交通)の廃路線の代替として平成15年から運行している				
	【事業実施効果】				
	・免許を持たない高齢者や学生の重要な移動手段であり、土日祝日は彦山駅から神宮方面への観光路線としても機能している				
	【現状認識】				
・中元寺線、津野線は平成29年よりデマンド型乗合交通として運行しており、彦山線のための運行である					
【今後の見通し・将来予測】					
BRTの運行開始にあわせ、路線が重複するため、大幅な見直しが必要である					
【事業改善予定等】					
・地域交通の利便性向上を図るとともに、町内すべての交通体系を網羅する地域公共交通計画の策定が必要である					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
・BRTに伴う町バス路線の見直し ・添田町地域公共交通計画の策定 ・持続可能な交通施策の展開					
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	交通手段が脆弱な本町においては必要な事業であるため、引き続き継続とする。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	デマンド型乗合タクシー運行補助金	進捗状況	C	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(2):公共インフラの整備				
主要施策	①:地域の公共交通を維持する				
事業概要	中元寺地区と津野地区を対象に自宅付近の運行ルート上から決められた目的地まで送迎する予約制乗合タクシー事業				
R3年度実施内容	中元寺区域 389人 上津野区域 151人 下津野区域 121人 計661人(1月末現在)				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	5,070,000	0	0	0	5,070,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	661人(1月末現在)			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・町バスからの転換により、中元寺区域、津野区域(上津野、下津野)でデマンド型乗合タクシーを運行している				
	【事業実施効果】				
	・免許を持たない高齢者の重要な移動手段となっている				
	【現状認識】				
・高齢女性の利用がほとんどである					
【今後の見通し・将来予測】					
・利用者が減少しているため、地域住民への周知が必要である					
【事業改善予定等】					
・地域交通の利便性向上を図るとともに、すべての交通を網羅する地域公共交通計画の策定が必要である					
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
・免許を持たない高齢者等の交通手段の確保 ・添田町地域公共交通計画の策定 ・持続可能な交通施策の展開					
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	交通手段が脆弱な本町においては必要な事業であるため、引き続き継続とする。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	地域生活支援事業	進捗状況	A	担当課及び係名	保健福祉環境課 子育て・障がい者支援係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(3):地域共生社会の実現を図る				
主要施策	①:社会参加と生きがいづくりを支援する				
事業概要	障がいのある人が地域において自立した生活を送ることができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じて市町村が柔軟に実施する事業として、10の必須事業と任意事業があり、障がい者(児)の福祉の増進を図るとともに、安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指す。				
R3年度実施内容	必須事業+任意事業(3事業)を実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	7,357,000	3,022,000	0	0	4,335,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	必須事業+任意事業(3事業)を実施			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 本町の実情に応じた地域生活支援事業を実施				
	【事業実施効果】 本町の実情に応じた事業が行えている。				
	【現状認識】 本町の実情に応じた事業が行えている。				
	【今後の見通し・将来予測】 現状維持、継続実施が望ましい。				
	【事業改善予定等】 現状維持、継続実施が望ましい。				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】 現状維持、継続実施が望ましい。				
事務局意見(総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	法に基づく事務事業であるため継続する。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	シニアパワーアップ塾の拡充	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課文化振興係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(4):社会教育・生涯学習の推進を図る				
主要施策	①:自ら求め、学び合う生涯学習活動を推進する				
事業概要	高齢者の長年培った経験や技術、特技を集約した教室を開校し、そこで受講した高齢者(塾生)が、その技術を地域で発揮させ、生きがいづくりに役立てる仕組みを構築する。				
R3年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・英峰日進塾等学習支援員派遣(累計): 27名 ・学童保育所学習支援員派遣(累計): 18名 ・油木ダム清掃ボランティア参加: 5名 ・彦山公民館景観美化作業: 13名 ・寄せ植え講座参加: 27名 				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	運営費補助金 260,000円	0	0	0	260,000
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	1期生16名 2期生10名 3期生15名 4期生10名 計51名			
	事業効果	④地方創生に対して効果がなかった(実績値が事業開始前よりも悪化した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 健康上の理由または就職等により活動ができないとの理由により15名が退会した。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により新規塾生募集の講座が開催できなかった。				
	【事業実施効果】 緊急事態宣言の発出等により新規塾生募集ができなかった。 コロナ禍の状況下で活動が制限される状況だったが、1~4期生が地域や施設の景観美化作業に積極的に参加・協力してもらえた。また、放課後学習支援を通じて子供たちと関わることができ、世代間交流を図ることができた。				
	【現状認識】 地域ボランティアや世代間交流などの活動を実施することで、参加者の生きがいづくりにもなった。				
	【今後の見通し・将来予測】 コロナ禍での活動に制限はあるものの、地域活動や世代間交流の良さを伝えるため、各種講座を開設して新規塾生を確保し、まちづくりボランティアへの参加や高齢者が地域で活躍できる社会の実現を目指す。				
	【事業改善予定等】 庭木の剪定や草刈り機の操作方法など興味がありそうな講座に加え、歴史探訪やウォーキングなどレクリエーション性のある講座も検討し、塾生の増加を図る。				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する 【目標値・理由等】 新規塾生 20名の確保				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 新規塾生の目標人数確保を目指しつつ、引き続き事業を実施すること。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	生涯学習講座開設事業	進捗状況	B	担当課及び係名	社会教育課文化振興係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(4):社会教育・生涯学習の推進を図る				
主要施策	①:自ら求め、学び合う生涯学習活動を推進する				
事業概要	自主講座の支援及び公民館主催講座の開設を通じて、住民の学びの場を提供し、もって生きがいのある人生を築き、うらおいのある地域づくりを目指す。				
R3年度実施内容	自主講座: 45講座 390名 主催講座: 5講座 40名				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	主催講座講師謝金 282,000円	0	0	0	282,000
本年度事業 終了後における 実績値	実績値	48講座 430名			
	事業効果	②地方創生に相当程度効果があった(目標値を上回ることはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館により、自主及び主催講座ともに開催に支障があった。 自主講座数については、例年通り。 軽運動室の利用が多く、新規講座開設の相談があっても、希望の時間帯が空いていない状況。				
	【事業実施効果】 コロナ禍での講座開設となり、多少の不便さがあったとは思いますが、学びの場を提供することができ、もって、住民の生きがいづくりに貢献できたと思う。				
	【現状認識】 体を動かさず講座について、軽運動室の利用希望が多い。				
	【今後の見通し・将来予測】 住民のニーズに沿った講座を開設して学びの場を提供していく。				
	【事業改善予定等】 軽運動室の利用団体が多く、時間帯によっては希望に添えないことがあるため、他の部屋の利用を促すなど、講座開設を支援する。				
今後の方針 (担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見 (総合企画財政課)	③今年度と同様に事業を継続する 特になし。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	みんなでまちづくり推進事業	進捗状況	A	担当課及び係名	総合企画財政課 政策企画係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(5):協働のまちづくりを推進する				
主要施策	①:協働のまちづくりを推進する				
事業概要	協働のまちづくりを推進していくために、町民と行政との間を調整し、伴走型支援を行ってもらう事業				
R3年度実施内容	みんなでまちづくり指針の策定 指針検討会議(2回) みんなでまちづくり会議(2回:ワークショップ) 職員研修(2回:課長級)、課内OJT研修(1回)				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	2,959,000	0	2,900,000	0	59,000
本年度事業終了後における実績値	実績値	みんなでまちづくり指針の策定			
	事業効果	①地方創生に非常に効果的であった(実績値が目標値を上回った場合等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】 ・昨年度策定した第6次総合計画に基づき、「みんなでまちづくり」を合言葉に協働の取組を推進するにあたり、今年度はみんなでまちづくり指針を策定することが大きな目標であった。 ・新型コロナウイルスの影響で当初予定に比べ会議等の開催時期など遅れや内容変更等が生じたが、ワークショップ参加者や検討会議メンバーなど住民のみなさんと一緒に「みんなでまちづくり」について考える機会を作ることができた。				
	【事業実施効果】 ・庁内では、課長級の研修、課内のOJT研修を実施したことにより、「みんなでまちづくり」とはなにかを全体で共有することができた。 ・また、何か大きなことをすることだけが協働ではなく、日頃から行っていることもみんなでまちづくりに繋がっていることや、継続することが重要であることなど、協働に対する理解を深めることができた。 ・第6次総合計画策定にあたり開催した「ソエダみらい会議」から継続して対話の機会を設定することができた。				
	【現状認識】 ・まちづくりを実践しているプレーヤーに会議に参加していただいたことで町民目線の指針ができ、来年度以降のプロジェクト実施に向けて確実に一歩ずつ取組を進めることができた。 ・現状、まちづくりに興味をもっている、又は参加している町民はごく一部ではあるが、指針を策定し継続して取組を進めることにより活動を知り、興味をもち、参加する、といった裾野を広げることにつながる。				
	【今後の見通し・将来予測】 ・来年度は指針に基づき、住民と協働で複数のプロジェクトの企画・立案を行うとともに、試行する。また、対話、プロジェクトに継続性を持たせるための体制構築を図る。				
今後の方針(担当課)	【事業改善予定等】 ・				
	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 【目標値・理由等】 ・来年度のプロジェクト企画及び試行件数3件 ・これまでの取り組みをさらに深化させ、対話による「みんなでまちづくり」を実践することで、脱縦割り・協働を推進する。				
事務局意見(総合企画財政課)	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる 第6次総合計画の基本構想であり、町にとって最も重要な事業であるため。				

第2期 添田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業検証シート

事業名	小さな拠点づくり事業	進捗状況	C	担当課及び係名	まちづくり課 まちづくり推進係
基本目標	4:安全・安心をベースに誰もが活躍できる場をつくる				
施策	(5):協働のまちづくりを推進する				
主要施策	②:地域の実情に合わせたコミュニティ活動を支援する				
事業概要	・地域の連携や持続可能なコミュニティとしての地域力の向上を図るため「小さな拠点づくり」を進める				
R3年度実施内容	・津野地域をモデル地域にヒアリング等を実施				
R3年度事業費(実績額)	金額	内 訳			
		国県支出金	地方債	その他	単費
	1,265,000	0	0	0	0
本年度事業終了後における実績値	実績値	・地域の実情を把握するためヒアリング等を実施			
	事業効果	⑤事業の準備段階であるため効果不明(実績値がない等)			
検証内容	【事業実績における理由・背景】				
	・少子高齢化が今後、さらに進む地域で、地域の困りごとや課題解決、またコミュニティが希薄化する中で地域の活動量の維持に向けた取り組みを地域と行う				
	【事業実施効果】				
	・キーパーソンとなる人物及び地域関係職員へのヒアリングの実施				
検証内容	【現状認識】				
	・小学校の休校、保育園の閉園が決定し、農協は閉鎖された ・津野地域では少子高齢化が顕著であり、今後はさらに進むと推測される ・上津野、中津野、下津野での地域間の温度差が感じられる ・コロナ禍もあり、地域活動がなかなか行えていない				
	【今後の見通し・将来予測】				
検証内容	・地域の困りごとや課題の洗い出し、地域関係図の作成 ・地域の課題解決と活動量維持することで、地域の営みや生活を維持していく ・その担い手となる地域運営組織の立ち上げ、集落支援員の導入を図る				
	【事業改善予定等】				
	・小さな拠点の取組を行うことで、地域で安心して暮らしていくことが可能になるものとする				
今後の方針(担当課)	③今年度と同様に事業を継続する				
	【目標値・理由等】				
事務局意見(総合企画財政課)	・地域運営組織の立ち上げ ・集落支援員の導入				
	③今年度と同様に事業を継続する 地域運営組織の立ち上げは相当の時間がかかるものであり、引き続き根気よく地域住民との対話を重視しながら継続すること。				